

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2022年 第48週（11月28日～12月4日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～ 手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎 増加」

第48週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,115例であり、前週比4.5%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんの順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.32、0.84、0.41、0.35、0.27である。

感染性胃腸炎は前週比11%増の651例で、大阪市西部8.50、南河内4.75、中河内4.60、豊能3.96、大阪市南部3.39であった。

手足口病は4%減の164例で、堺市1.47、大阪市南部1.28、北河内1.20である。

ヘルパンギーナは13%増の81例で、大阪市東部1.33、北河内0.76、大阪市西部0.70であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は22%減の69例で、中河内0.90、大阪市南部0.89、泉州0.47である。

インフルエンザは25%減の111例で、定点あたり報告数は0.37であった。大阪市北部0.85、泉州0.63、北河内0.60である。

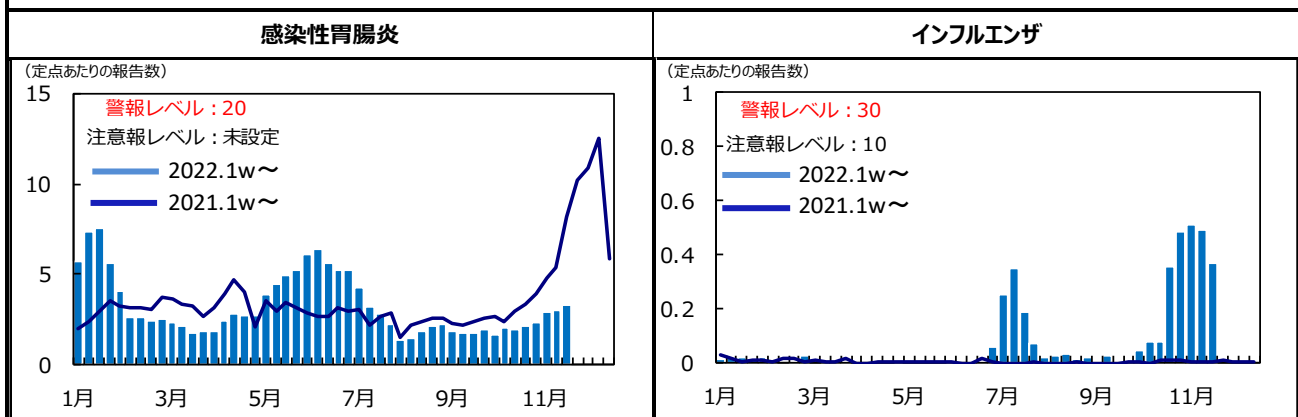


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2022年 第48週11月28日～12月4日）

第48週の順位	第47週の順位	感染症	2022年 第48週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2021年 第48週の 定点あたり 報告数	2022年第48週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.32	11%増	8.10	1歳_16%
2	2	手足口病	0.84	4%減	2.47	1歳_34%
3	4	ヘルパンギーナ	0.41	13%増	0.52	2歳_31%
4	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.35	22%減	0.36	3歳, 4歳, 5歳_14%
5	5	突発性発しん	0.27	11%増	0.26	1歳_67%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.37	25%減	0.00	10-14歳_24%

突発性発しんについて、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2022/23年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

第48週のコメント

～梅毒～ 大阪府における梅毒累計報告数は昨年同時期より多く、全国でも2020年5,784例、2021年7,873例と増加している

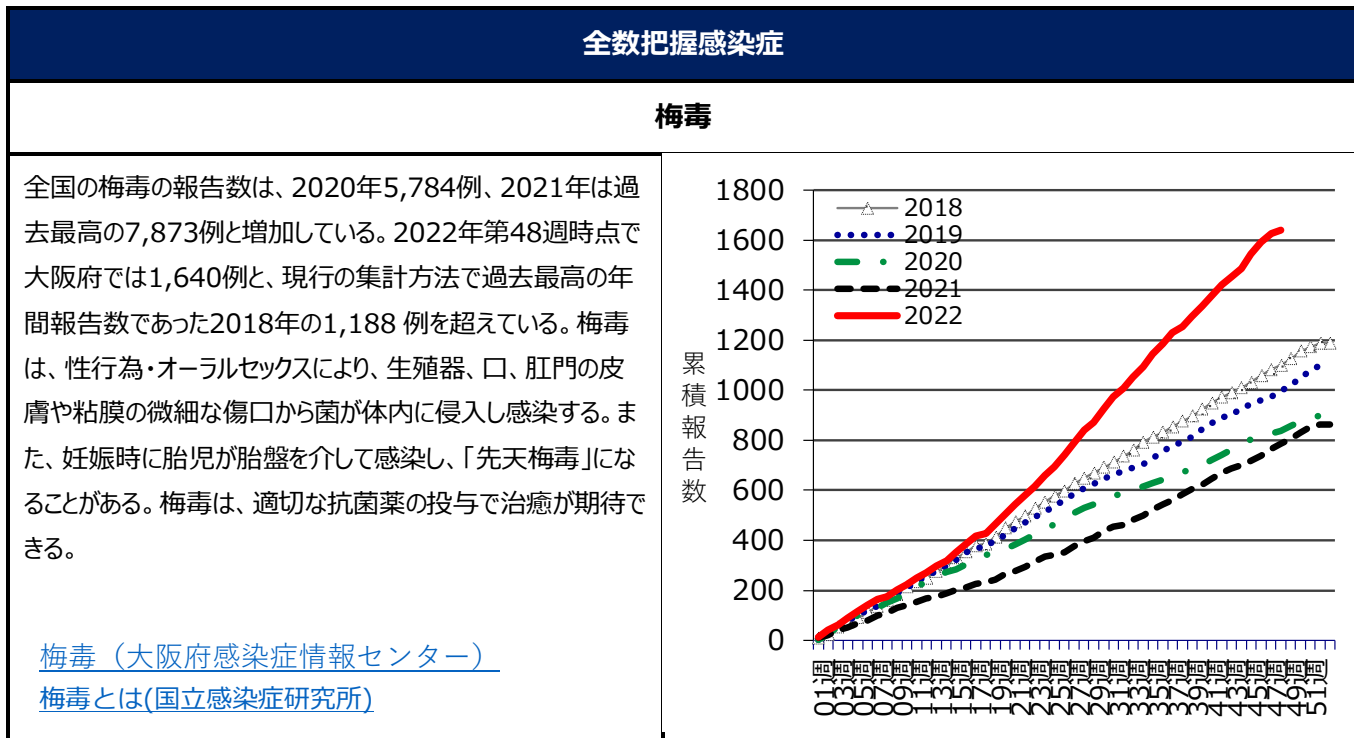


表2. 大阪府全数報告数（2022年 第48週11月28日～12月4日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3		1		2					181
5類感染症	アメーバ赤痢	1		1							40
	ウイルス性肝炎	1		1							12
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3	2		1						143
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1			1						17
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2		1						1	39
	後天性免疫不全症候群	1								1	86
	侵襲性肺炎球菌感染症	5	2				1		1	1	96
	梅毒	14			2	1	1		1	9	1,640
	百日咳	2			1					1	29
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	36,649	2020年1月以降累計 2,309,841								
結核 (2022年10月分)	結核 新登録患者数：47名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 24名) (府内累積報告数 859名、内 肺・喀痰塗抹陽性 331名)										

(2022年12月6日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『令和2年11月1日まで』と『令和2年11月2日以降』をご覧ください。